

奥村多喜衛展 同大で開幕 マキキ教会模型など100点

来年2月まで

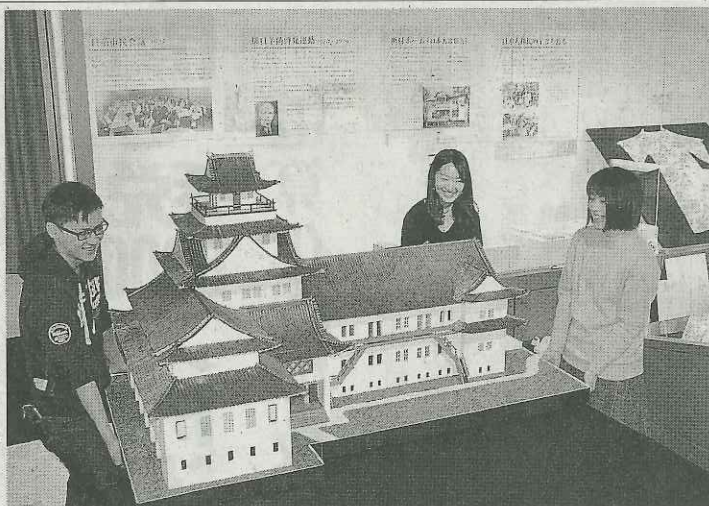
【大阪支社】安芸郡田野町出身でハワイ日学校や病院を設立し、系人社会の民生向上に尽くしたキリスト教宣教師、奥村多喜衛(1865~1951年)の足跡を紹介する企画展「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛」が8日、京都市の同志社大学今出川キャンパスで始まった。来年2月10日まで。

企画展には、奥村の聖書や紋付きの羽織、同教会の33分の1模型など約100点が展示される。 (佐藤邦昭)

「偉大な先輩誇り」 本県出身6人手伝い

【大阪支社】高知出身で同志社の卒業生。偉大な先輩を誇りに思う企画展「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛」には、高知県出身の同大学生6人が運営スタッフとして参加している。3年生の

企画展の準備をする高知出身の同志社大生(京都市の同志社大学今出川キャンパス)



北川毬那さん(21)が奥村への思いを語ると、皆がうなずいた。手伝っているのは、

交換留学などでマキキ聖城基督教会と交流している土佐塾高校の卒業生。企画展については、高校から連絡があったという。

政策学部2年の松村悠生さん(19)は「ハワイで日系人社会を発展させた業績から、地域づくりやPR政策について学べそう」。土佐塾中時代に交流事業で同教会を訪れたことのある1年生の泉佐代子さん(19)は「奥村だけでなく、同じ学校出身の先輩とも出会わせてくれた。縁の不思議さを感じる」と話していた。(佐藤邦昭)